



平成 26 年 4 月 22 日
復興庁

「被災地での 55 の挑戦—企業による復興事業事例集 Vol. 2—」 の公表について

復興庁は、昨年度に引き続き被災地の企業が直面した課題の克服に取り組んだ 55 件(*)の事例を取りまとめましたので、お知らせします。

この事例集では、被災地の企業が震災前の水準以上に売上を回復させるために取り組んだ具体的な内容を以下の 3 つのカテゴリに分けて掲載しています。

- ① 震災で失った売上の回復、新たな販路開拓
- ② 新商品・新サービスの開発、新事業の創造
- ③ 経営力の強化（人材育成、資金調達、業務効率化など）

この事例集を参考に、今後、被災地においてひとつでも多くの事業が動き出し、産業の復興が加速されることを期待しています。

なお、事例集は、復興庁ウェブサイトに掲載する予定です。

（掲載 URL : <http://www.reconstruction.go.jp/>）

(*) 昨年度も 55 件の事例を取りまとめており、今年度分（重複取材先除く）を含めた事例数は累計で 101 件になります。

以 上

本件連絡先：

復興庁企業連携推進室 工藤、松田

TEL : 03-5545-7234

E-MAIL : kigyorenkeisuishinshitsu@cas.go.jp

徹底したニーズの汲み上げで被災地ならではの商品を開発

石村工業(株) (岩手県釜石市：代表取締役 石村真一)

1. 会社概要

釜石市の石村工業(株)は、水産加工機械などの製造を手掛ける会社。当初、新日鉄釜石製鉄所の設備メンテナンス業者として創業したが、同製鉄所の高炉停止をきっかけに自社商品の開発と販売に力を入れている。震災では3工場のうち1工場が全壊、残る2工場も大きな被害を受けた。

2. 取組内容

当社は、徹底したニーズの汲み上げにより、2日かかりだったワカメの塩蔵工程をわずか1時間に短縮できる高速攪拌機「しおまる」や停電時でも使える木質ペレットストーブ「クラフトマン」などの商品を開発し、震災後も順調に売り上げを伸ばしている。

3. 成功のポイント

漁家や農家などのニーズを徹底的にすくい上げ、大手企業が参入しにくい被災地ならではの市場を開拓している点で注目される。



2日がかりの手作業だったワカメの塩蔵工程をわずか1時間に短縮できる高速攪拌機「しおまる」これまでに累計500台を出荷。震災後も順調に売上を伸ばしている。



震災後、停電時でも使えると多数の注文が寄せられた木質ペレットストーブ「クラフトマン」

震災の経験をバネに新しいモノづくりに繋げる

㈱山岸産業 (岩手県大槌町：代表取締役 山岸一)

1. 会社概要

大槌町の㈱山岸産業は、高品質、短納期を強みとするプレート加工業者。震災では、2006年に新設した吉里吉里工場が津波により流失した。

2. 取組内容

当社は、震災の経験をきっかけに「災害時に必要なものは何か」を考え、燃料不足やガレキが散乱している悪路でも走行できる「電動アシスト三輪自転車」や、停電時にガソリンだけではなくLPガスでも発電可能な「小型ハイブリッド発電機」を開発した。

3. 成功のポイント

震災の経験をヒントに地元貢献を改めて見つめなおした結果、新たな商品の開発につながっている点で注目される。



震災時は、二輪の自転車は荷物運搬には不安定だったことから、三輪式の電動アシスト自転車の開発を思いついた



停電復旧に20日間以上を要した大槌町での経験をきっかけに、一般家庭でも使える小型のハイブリッド発電機が生まれた

ギンザケの生食展開と黄金牡蠣のブランド化に挑戦

(株)マルキン (宮城県女川町：代表者 鈴木 欣一郎)

1. 会社概要

女川町の(株)マルキンは、ギンザケの養殖から加工、販売までを一貫して行っており、カキやホタテの加工・販売も行っている。震災では養殖設備だけでなく、養殖魚や加工施設も失った。

2. 取組内容

当社は、生食用のギンザケの普及を目指し最新鋭の凍結機を導入。解凍による細胞破壊を防ぎブリップも少ない品質の良いギンザケの生産と通年での販売を可能にした。また、有名レストランシェフの協力を得て、「黄金牡蠣」ブランドを立ち上げ、積極的な試食会の開催などで全国から注文を受けるようになった。

3. 成功のポイント

最新鋭の凍結機の導入により「安心安全で高品質」なギンザケの提供を実現。有名シェフとのコラボレーションによってカキの独自ブランドを構築し、販売力も強化している点で注目される。



養殖ギンザケの「銀王」。当社は生食での提供にこだわり続けている。



大阪で開催されたシーフードショーで開発した「牡蠣のグラタン～インペリアル風」

地場企業の技術ノウハウを持ち寄り商品改良に成功

(株)ゆめサポート南相馬 (福島県南相馬市：所長 松本克己)

1. 会社概要

南相馬市の(株)ゆめサポート南相馬は、市内企業向けの経営相談や創業支援などを手掛ける第三セクター。地場企業の技術力底上げを目的に機械金属加工業者 33 社とともに「南相馬機械工業振興協議会」などを立ち上げている。

2. 取組内容

当社は、東北大発のベンチャー企業が開発した「足こぎ車いす」の改良普及のため、会員企業とともに技術開発を実施。開発に参加した日本オートマチックマシンの技術を活かし、自転車などで使われる差動装置の仕組みを応用することで車輪の回転数の調整に成功、さらにタカワ精密の技術を活かし軽量化を実現、より小さい力で作動可能にするなどの商品改良に成功した。

3. 成功のポイント

地場企業が受注生産体制からの脱却を目指し、それぞれの企業が持つ技術を組み合わせることで新たな技術開発や販路開拓を試みている点で注目される。



自転車などに使われる差動装置の仕組みを取り入れることで、車いすの回転数の調整に成功。さらに軽量化によって小さな力でも作動できるように商品を改良した。

日帰り温浴施設で地元客の取り込みに成功（福島県福島市）

㈱聚楽 （福島県福島市：取締役社長 加藤 治）

1. 会社概要

福島市の㈱聚楽は、飯坂温泉で温泉宿泊施設「ホテル聚楽」を運営する会社。原子力災害などの影響により、除染作業員や震災ボランティアの需要こそ増加したものの、震災後は県外からの宿泊客などを中心に観光入込が減少している。

2. 取組内容

当社は、将来的な復興関連需要の減少を見越して、2013年4月に日帰り温浴施設「いいざか花ももの湯」を新設。開業から1年足らずで利用客10万人を集めた。利用者の約6割は県内の日帰り客が占め、同施設の開業によって、子ども連れの家族、カップル客や女性グループなど若年層の取り込みにも成功している。

3. 成功のポイント

県外からの観光宿泊客だけでなく、地元日帰り客に目を向けることで、新たな地域内需要を掘り起こした点で注目される。



かつては滞在型の宿泊観光客が客層の中心であった飯坂温泉ホテル聚楽。震災後は地元利用客をターゲットに日帰り温浴施設「花ももの湯」を開業。地域内の需要を喚起することに成功した。

電子部品メーカーがつくる世界が認めたスイーツで風評に立ち向かう

㈱向山製作所 （福島県大玉村：代表取締役社長 織田金也）

1. 会社概要

福島県大玉村の㈱向山製作所は、電子部品の製造会社。ものづくりのノウハウを活かし、生キャラメルなどのスイーツも生産している。震災後は風評による影響を受けた。

2. 取組内容

当社は、風評に立ち向かうべく、スイーツの本場パリで開催される世界最大級の展示会「サロン・デュ・ショコラ」にスイーツを出展。世界的な評価を受けることで評判を呼び、2013年には東京駅前の新商業施設「KITTE」などに直営店舗を構えるに至った。

3. 成功のポイント

ものづくりのノウハウを大胆な発想でスイーツづくりに応用。県産原料にこだわり、国際的な評価を得ることで風評に立ち向かっている点で注目される。



展示会に出展した「生キャラメル」。展示会では評判を聞きつけた著名パティシエも出展ブースを訪れた。



2013年に開業した東京駅前の商業施設「KITTE」に直営店舗を構えた。